

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本年度で125年を迎える伝統ある本校の役割は、生徒や保護者・地域・社会の期待に応えるため、生徒の第一に希望する進路の実現を図るとともに、地域・社会に有為で未来を拓きグローバルに活躍するために求められる「確かな学力」と「幅広い資質・能力」、「豊かな感性」を育成することである。そのため、「グローバルリーダーズハイスクール (GLHS)」、「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」としての責務のもと、生徒にとって有意義で充実した教育活動の展開を追求していく。

- 育てたい生徒像： ○岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒  
○チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒
- 目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす

## 2 中期的目標

## 1 「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成

- (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保を徹底し、生徒の持つ「学力」を最大限に引き出す。
- ア 講習の実施や自習室の開放など、土曜日の午前の時間帯に生徒が主体的に学ぶ環境を整え、土曜日の午前に学習する習慣を身に付けさせる。
- イ 「岸高手帳」の活用により、学習習慣の定着と時間管理能力の育成、また、ポートフォリオとして様々な活動を記録する習慣を身に付けさせる。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「土曜日の午前中を学習時間として活用」の肯定的評価を60%に。(R1 56.8%、R2 58.6%、R3 53.1%)
- (2) GLHS、SSHとして教育活動の充実に取り組み、生徒の「幅広い資質・能力」の向上を図る。
- ア 課題研究の充実を図り、生徒の「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」、「協働して取り組む力」などを育成する。
- イ 外部と連携した取組みや地域と協働した取組みなどをすすめ、GLHSやSSH等の活動をさらに深化させる。
- ウ 「グローバルリーダー養成プログラム」など、海外の大学生等との交流を通じて、国際的な視野を広げるとともに、「英語による表現力」を育成する。
- ※ SSH アンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を70%以上に。(R1 75%、R2 67%、R3 60%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「岸和田高校では特色ある教育活動が行われている」の肯定的評価を90%以上維持。(R1 92.1%、R2 96.2%、R3 95.1%)
- (3) 学校として組織的に、また、教員一人ひとりが授業力の向上に取り組む。
- ア 1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、生徒の「確かな学力」の育成をめざす。
- イ 各教科が3年間の目標・取組み・評価指標を示す「岸高学びのスタイル」を作成し、進路実現や授業満足度など、学校目標の達成状況を検証する。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価を75%以上に。(新規)
- ※ 授業アンケート項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身に付いた」の平均3.20以上を維持。(R1 3.19、R2 3.28、R3 3.24)

## 2 「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」

- (1) GLHS、SSH等の活動を通して、生徒が高い志を持ち、自らの将来像について主体的に考えるよう働きかける。
- ア 大学・研究機関等への訪問等を通して、生徒が視野を広げ、学習意欲を高めることにより、「主体的に学ぶ力」を育む。
- イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施により、生徒が高い志を持ち、早い段階で自らがめざす将来像を描けるようにする。
- ※ 大学・研究機関等への訪問、各種講演や研修、実習など、それぞれの取組みに対する生徒の肯定的評価を90%以上に。
- (2) 第一に希望する進路の実現をめざし、生徒が高い志を持ち続けることができるよう指導・支援する。
- ア 学力診断や模擬試験等を定期的実施し、生徒が自らの実力を把握するとともに、教員がその結果に基づき適切な進路指導を行う。
- イ 「岸高スーパークラス」、「岸高ハイレベル講習」など、高い志をもった生徒が互いに切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整える。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導」の肯定的評価を90%以上維持。(R1 94.1%、R2 92.9%、R3 95.4%)
- ※ 国公立大学進学者の割合を55%以上に。(H30、R1で56.5%、R1、R2で46.0%、R2、R3で52.4%)

## 3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備

- (1) 「文武両道」をめざし、学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。また、部活動において「リーダーとしての資質・能力」を育む。
- ア 生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図り、生徒の「豊かな感性」を育む。
- イ 部活動を奨励するとともに、部活動においてリーダーとしての資質・能力を育む。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価を90%以上維持。(R1 94.5%、R2 93.4%、R3 91.4%)
- (2) 生徒一人ひとりが安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備に努める。
- ア 社会人としてのマナーを身に付け、自他の人権を尊重する人権感覚を醸成するなど、「高い人間性」を育む。
- イ 生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。
- ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価を80%以上維持。(R1 88.3%、R2 77.8%、R3 82.1%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価を85%以上維持。(R1 88.5%、R2 88.1%、R3 87.6%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「困ったときに保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価を65%以上に。(R1 65.8%、R2 62.6%、R3 62.5%)

## 4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上

- (1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果などを積極的に広く発信する。
- ア 様々な機会を通じて、また、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。
- イ 学校Webページにより、課題研究における論文などの成果に加え、本校所蔵の資料のデジタル版「岸コレ」などを継続して発信する。
- ※ (保護者向け) 学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価を90%以上維持。(R1 90.1%、R2 93.7%、R3 94.8%)
- (2) 地域の学校や団体等との連携を密にし、地域を中心とした社会参画意識の向上を図る。
- ア 地域の幼稚園や小学校等との交流などを行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。
- イ 地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。
- ※ 生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。(新規)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学校生活全般】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校に対する満足度は生徒・保護者とも90%前後の数値であった。90%という数値は高いようにも思われるが、1割は満足していないという考えのもと、引き続き、教育活動の充実、教育環境の整備に取り組んでいきたい。</li> <li>生徒の「学校に行くのが楽しい」は87.2%であり、ここ3年で最も高かった。今年度は一部制限しながらも、ほぼ予定どおり、学校行事を実施できたのが要因だと考える。</li> </ul> <p><b>【指導方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導方針については、生徒の87.2%、保護者の88.2%が納得・共感するという結果だったが、自由記述では改善すべき具体的な意見をいただいた。すぐに対応できることは速やかに改善しつつ、意見を踏まえた改善を進められるよう検討していきたい。</li> <li>保護者の「学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている」の肯定的評価は79.1%と低い値になった。今後は説明会や講演会など、校長としての考えを直接、保護者に伝える機会を増やしていきたい。</li> </ul> <p><b>【学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業満足度は87.7%であり、過去2年の83%台と比べ大きく上昇した。一方、保護者の「3 授業が分かりやすいと言っている」は、ここ3年間では最も高いものの81.5%に留まっていることを踏まえ、教員一人ひとりの教科指導力の向上に向けて、学校として組織的な取組を継続していく。</li> <li>新規項目である「1人1台端末を積極的に活用している」に関する肯定的評価は89.0%であった。1年生平均は96.3%、3年生平均は79.9%であり、特に、3年生では大学受験に向けた演習などの授業の実施が求められる中、端末を活用した授業づくりは難しいことが要因だと考えられる。</li> <li>「探究的な学習や特色ある教育活動が行われている」は、ここ3年間で最も低く92.7%であった。この項目の肯定的評価が下がっていることについては、課題研究に対するアンケートを注視するなど、もう少し詳しい状況を把握し分析していきたい。</li> <li>「土曜日の午前中に学習している」は49.0%であり、ここ3年で大きく値を下げた。学習習慣の定着が課題である中、土曜学習タイムの取組が有意義なものとなるよう、取組の工夫・改善を行うとともに、生徒には改めて時間の有効活用を訴えていきたい。</li> </ul> <p><b>【進路指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導の満足度については生徒が94.1%、保護者が91.8%であった。今後も生徒一人ひとりが具体的な目標、「高い志」をもって学習に取り組めるよう、生徒の実態にあわせて丁寧な進路指導を行っていきたい。</li> </ul> <p><b>【生徒指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつやマナー指導などに関する生徒の肯定的評価は81.4%であった。あいさつやマナー指導をはじめ、生徒に対する指導については、すべての教員がその重要性を認識し、学校としての指導方針に基づき一致した指導が行えるよう取り組んでいきたい。</li> </ul> <p><b>【教育相談】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「いじめなど私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は90.9%、保護者の同様の項目は90.3%であり、この3年間で最も高い数値となった。また、生徒の「保健室や相談室などで気軽に相談できる」も64.4%と最も高い数値となった。学習面や人間関係などで悩みを抱える生徒が一定数いる中、学校としての教育相談体制は整備されているものと考え、さらに生徒が相談しやすい体制づくりに努めていきたい。</li> </ul> <p><b>【学校行事・部活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事に関する肯定的評価は、生徒が90.1%、保護者が93.8%であり、この3年間で最も高い数値となった。</li> <li>生徒の部活動に関する肯定的評価は93.1%であった。部活動に加入しているのべ生徒人数の割合が95%を超える状況と合致するものである。</li> </ul> <p><b>【発信・広報】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの情報発信に関する肯定的評価は、生徒が91.0%、保護者が91.9%であり、この3年間で最も低い数値となった。メールサービスについては必要に応じて漏れることなく頻繁に配信できているものの、ホームページの更新が滞っていたり、校長ブログの配信回数も過去2年と比べ大きく減ってしまったことが要因だと考えられる。今回の結果を真摯に受け止め、改善していきたい。</li> </ul> <p><b>【PTA活動等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の「岸和田高校での学校行事やPTA活動に参加したことがある」は、過去2年と比べると高いが55.1%であった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、文化祭や体育祭、PTA活動などで一部制限を設けながらの実施になっていることも要因の一つだと考えられる。来年度はより多くの保護者に来校いただき、生徒の様子を見てもらえるような行事や活動を増やしていきたいと考えている。</li> <li>保護者の「岸和田高校は懇談や家庭連絡などを通じて、保護者と相談しやすい体制を作っている」は82.6%であった。この数値をまだまだ相談しやすい体制になっていないという指摘だと考え、こまめな家庭連絡をはじめ、保護者と一緒に生徒への指導・支援を行う体制を確立していきたい。</li> </ul>	<p>第1回（5/18）</p> <p>○令和4年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組を進める上で検証しながら改善していくことはとても大切である。私自身は「ハイレベル講習」や「スーパークラス」について、もともと高い目標を持って入学してきた生徒をさらに分ける必要があるのだろうかと思うところがある。ぜひとも、その成果について検証してほしい。</li> <li>「1人1台端末の活用をすすめながら、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善に取り組む」という項目が新規に追加されているが、GIGA スクール構想を踏まえ府が独自に整備した1人1台端末の活用はどのレベルで達成できるかということも検証していかなければならない。</li> <li>以前は「いわゆる難関大学に入れば大企業に就職できる」と言われる時代であったが、今はそういった確約や保証はない。こういう状況の中で、生徒にどのような力を付けるのか、そのために、どのような取組をすればよいのだろうか。また、どのように目標を立てさせればよいのだろうかといったことをしっかりと考えてほしい。</li> <li>課題研究を行うことによって色々なことを知ったり学んだりするきっかけになる。大阪府内の文化施設の学芸員などを活用してもよいのではないだろうか。</li> <li>学習指導や進路指導に熱心に取り組んでいることはよく理解できた。昨年度、生徒の様子を見たが、自分が高校の時と比べると行儀よくおとなしい生徒が多いと感じた。自分は今でも高校時代の友達との繋がりが一番強い。今の岸高生にも「岸高の友人が生涯の友」となってもらいたい。</li> </ul> <p>第2回（10/19）</p> <p>○スクール・ミッション（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に意見は出なかった（提出について了承を得る）。</li> </ul> <p>○取組全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生を指導する中で、将来こんな大人になりたい、こんなことをしたい、といったことが生徒から出てこない。幼い頃から自分の人生観を考えるような指導をしないといけないように感じている。</li> <li>今年の冬は新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザの流行も予測されているので、よい睡眠習慣をつくるなど生活リズムを整えることによって体と心を整えるのが大事である。毎日を振り返るのが大事だと思うので、生徒さんにも伝えてほしい。</li> </ul> <p>第3回（2/15）</p> <p>○令和4年度学校教育自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の「学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている」が96.4%、一方、保護者の「岸和田高校では、学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている」は79.1%と大きな差があるが、どう分析しているか。（→校長として保護者に直接話しをする機会がほとんどなかった。校長ブログの掲載が減ったことも要因と考える。来年度のPTA総会は集合形式で行う。）</li> <li>現3年生は今年度に入って初めてPTA行事が行われ、参加できた保護者は喜んでいて、今後できる限りコロナ禍前の状況に戻してもらいたい。</li> <li>自由記述にある土日のジャージ登校について、中学校では、休日はクラブジャージや体操服での登校も認めている。</li> </ul> <p>○令和4年度学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「土曜の午前中を学習に活用」の肯定的評価が50%を下回ったが、土曜日に受講可能な講習などについてはどのような状況か。（→1年は2学期からハイレベル講習、2・3年は希望者講習を実施。特に3年はほぼ毎週希望者講習を行い、参加は10～30名程。千亀利セミナー（土曜午前の自習）は毎週60名程。コロナ禍もあり、土日に自習室を解放できない時期が続いたことも肯定的評価の減少に影響している。）</li> <li>GLHS10校間で学び合いの機会があれば良いと思う。朝読や土曜活用などについても他のGLHSで先進的な取組があれば参考にしてもらいたい。</li> <li>小学生から塾に通う子は、家庭以外で遊ぶ機会が減り、人との出会いや交流の機会が少なく、将来に向けての視野が狭くなっているように感じる。</li> <li>課題研究などで自分の興味・関心と向き合うことが将来のことを考えるきっかけになれば良いと思っている。</li> <li>岸高手帳の活用は良い取組だと思う。自分でスケジュールを書くことで隙間時間を有効に活用できる力が身に付くようになる。</li> <li>OB・OG講演会は様々な職業の方の話を聞けるので良かった。毎日の小さな目標を立てて、1日1日を無駄に過ごさないようにしてもらいたい。</li> <li>良いイメージをすることが自身の健康に影響すると考えている。朝読廃止の代わりに、Google社やアップル社が早い時期から取り入れていた1分間の瞑想をさせてみるのも良いのではないかと思う。</li> </ul> <p>○令和5年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に意見は出なかった（了承を得る）。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア 「土曜学習タイム」実施による土曜日午前の学習習慣の定着  イ 「岸高手帳」の活用による学習習慣の定着	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア 土曜日午前の時間帯に講習の実施や自習室の開放など、生徒が主体的に学ぶ環境を整え、土曜日の午前に学習する習慣を身に付けさせる。  イ 土曜日の午前に「千亀利セミナー(卒業生の監督による自習)」を実施する。  ウ 「岸高手帳」の活用により、学習習慣の定着と時間管理能力の育成を図る。	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア (生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日の午前中を学習に活用」の肯定的評価を60%以上に。(R3 53.1%)  イ 「千亀利セミナー」年間利用数2,000人以上を維持。(R3 約2,100人)  ウ 「岸高手帳」の活用度について「活用している」「まあまあ活用している」を50%以上に(R3 40%)	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア 肯定的評価は 49.0%であり、3年連続で値が下がった。講習の実施や自習室の開放は予定通り行ったが、半数が土曜の午前を学習時間として活用できていないことから、取組みについての抜本的な見直しと生徒のさらなる学習意欲の向上を図りたい。(△) イ 「千亀利セミナー」年間利用数は 1/14(土)時点で 1,785 人であった。(△) ウ 「岸高手帳」の活用度は 39.9%であった。「岸高手帳」の活用を通して、スケジュール管理の重要性を改めて訴えていきたい。(△)
	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア 課題研究の充実  イ GLHSやSSHの活動のさらなる深化	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア 課題研究を充実させ、「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」などの育成を図る。  イ 外部との連携や地域での協働等により、GLHS や SSH の活動をさらに深化させる。	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を70%以上。(R3 60%) イ (生徒向け)学校教育自己診断「特色ある教育活動がある」の肯定的評価 90%以上を維持。(R3 95.1%)	(2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア アンケートによる肯定的評価は 63.7%であった。改めて、課題研究を行うことの意義を伝えるとともに、自分事として研究に取り組むよう働きかけていきたい。(△) イ 「特色ある教育活動がある」の肯定的評価は 92.7%と3年連続で値が下がった。90%は維持したものの、下がっている要因の把握に努め、改善していきたい。(○)
2 「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア 授業改善の取組み  イ 各教科における「岸高学びのスタイル」の作成・共有	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア 1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。  イ 各教科が3年間の目標・取組み・評価指標を示す「岸高学びのスタイル」を作成し、学校目標の達成状況を検証する。	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア (生徒向け)学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価を75%以上に。(新規)  イ 授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価 3.20以上を維持。(R3 平均3.24/4.0点満点)	(3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア 「1人1台端末を活用している」の肯定的評価は 89.0%であった。新規項目でもあり、目標を75%以上としたが、大きく超える結果であった。今後は今回の数値を基準として、さらなる向上に努めていきたい。(◎) イ 授業アンケートの項目8, 9の肯定的評価は昨年度の数値を上回り、平均3.30であった。教員一人ひとりが真剣に毎時間の授業に向き合い、教材研究に努めた成果であると考え。(○)
	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア 大学・研究機関等への訪問の実施  イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア 京都大学キャンパスガイドや大阪大学ツアー、東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーなどの参加を奨励する。  イ 卒業生による職業講話や大学教授等の出前講義、SSH 講演会などを実施し、生徒に将来について考える機会を与える。	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア 東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーへの参加生徒の肯定的評価を 90%以上に。  イ 卒業生による職業講話、大学教授等の出前講義、SSH 講演会への参加生徒の肯定的評価を 90%以上に。	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア 東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーに参加したすべての生徒が「とても満足している」、「満足している」と答え、肯定的評価は 100%であった。参加者も想定していた人数を集めることができた。(◎) イ 各種講演会に参加した生徒の満足度は高く、肯定的評価は 90%以上(卒業生による職業講話は 95%、大学教授等の出前講義は 90%)であった。(○)
	(2) 第一に希望する進路の実現 ア 進路指導の充実  イ 「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」の実施	(2) 第一に希望する進路の実現 ア 学力診断や模擬試験等の結果を踏まえた適切な進路指導を行う。  イ 「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」など、高い志をもった生徒が切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整備する。	(2) 第一に希望する進路の実現 ア (生徒向け)学校教育自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価 90%以上を維持。(R3 95.4%) イ 「岸高ハイレベル講習」について、生徒アンケート「受講してよかった」80%以上(R3 80.0%)、「実力がついた」75%以上(R3 75.4%) ウ 「岸高スーパークラス」について、生徒アンケート「クラスに入ってよかった」80%以上、「実力がついた」75%以上(新規)	(2) 第一に希望する進路の実現 ア 「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価は 94.1%であった。進路指導について一定の評価を得ていることが分かった。(○) イ 「岸高ハイレベル講習」は、「受講してよかった」が 89.6%、「実力がついた」が 88.1%と、この5年間で最も高い値となり、参加生徒から高い評価を得ることができた。評価が高かった要因を分析し、次年度に活かしたい。(◎) ウ 「岸高スーパークラス」は、「クラスに入ってよかった」が 93.0%、「実力がついた」が 82.5%であった。(◎)

## 府立岸和田高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備</p>	<p>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア 生徒が主体的に取り組むことができる活動の充実 イ 部活動の奨励と部活動におけるリーダーとしての資質・能力の育成</p> <p>(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア 社会人としてのマナー、人権感覚の育成 イ 安心して学ぶことができる学習環境づくり ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実</p>	<p>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア 校外学習、文化祭、体育祭、合唱コンクールなど、生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図る。 イ 各部活の代表者を対象に、リーダーシップを高めることを目的とした研修を実施する。</p> <p>(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア 社会人としてのマナーや自他の人権を尊重する人権感覚など、「高い人間性」を育む。 イ 生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。 ウ 教育相談室の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。</p>	<p>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア (生徒向け)学校教育自己診断「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価を90%以上。(R3 87.6%) イ (生徒向け)学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価を90%以上維持。(R3 91.4%) ウ 部活代表者対象の研修を1回以上実施(R3 2回実施)</p> <p>(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア (生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」を80%以上に。(R3 82.1%) イ (生徒向け)学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価を85%以上維持。(R3 87.6%) ウ (生徒向け)学校教育自己診断「困ったときに保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価を65%以上。(R3 62.5%)</p>	<p>(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア 「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価は90.1%であった。今年度は新型コロナによる制限が一部に留まったことも評価が高くなった要因であると考えられる。(○) イ 「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価は93.1%であった。実際に本校では、部活動に加入しているのべ生徒人数の割合は95%を超えている。(○) ウ 部活代表者のみならず、対象を部活動員に広げ、研修を2回実施。(10/13、3/2)(○)</p> <p>(2) 安全で安心な教育環境の整備 ア 「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価は81.4%であった。生徒に対し、あいさつやマナー指導など、全教員が一致して指導を行っていききたい。(○) イ 「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価は90.9%であり、この3年間で最も高い値となった。安全で安心な教育環境に向け、さらなる向上をめざしていききたい。(○) ウ 「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価は64.4%であり、目標とする65%には届かなかった。さらに生徒が相談しやすい体制づくりに努めていききたい。(△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上</p>	<p>(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア 様々な機会、様々な手段による教育活動の積極的な発信 イ 学校Webページによる探究学習の成果、岸和田高校教育コレクションの発信</p> <p>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア 地域の幼稚園や小学校等との交流による社会参画意識の向上 イ 地域の公的機関やNPO等と連携した地域の課題解決や発展に貢献できる取組</p>	<p>(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア 様々な機会、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。 イ 学校Webページ「岸高'e'博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校が所蔵する資料のデジタル版「岸コレ」などを継続して発信する。</p> <p>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア 地域の幼稚園や小学校等との交流を行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。 イ 地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。</p>	<p>(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア (保護者向け)学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価を90%以上維持。(R3 94.8%)</p> <p>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア 地域の幼稚園との交流を2回以上実施。(R3 3回) イ 生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。(新規)</p>	<p>(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア 「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価91.9%であった。目標の90%は維持したものの、この3年間では最も低い値となった。その要因として、ホームページの更新や校長ブログの配信回数減少などが考えられる。今回の結果を踏まえ、改善していききたい。(○)</p> <p>(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア 地域の幼稚園との交流を2回実施した。昨年度は3回実施したが、今年度から実施された学習指導要領家庭科の指導内容の変更に伴い、2回の実施とした。(○) イ 2年生文理課題研究において、地域の課題をテーマとした課題研究は5本であった。地域のNPOの方たちなどの協力を得た成果だと考える。課題研究のさらなる充実に努めていききたい。(○)</p>